

特集にあたって

増田 史, 高尾 碧, 豊田喜弘, 森川 暢

1 精神科医の立場から

私たちは、精神科医として働いています。精神科医といえば「話を聞いて薬を処方している」というようなイメージが強いかもしれませんが、しかし実際には大抵の診察室で、「人はどのように生きるのか?」、というような燦然とした、ひりつくような、そして簡単には解決しそうでない問いが、常に横たわっています。私たちは常に目の前の方と対峙し、必死に耳を傾け、一緒に悩み、言葉を選び、方向性を探る、一回一回の真剣勝負を行っています。そのなかで、精神科医としての輪郭が、少しずつ形づくられていきます。

このように精神科医としての道を選んで働いているなかで、学生、初期研修医、そして総合診療の現場にいる専攻医の先生方とお話していると、ふと立ち止まって振り返るときがあります。

「私たちは精神科医として、これから一人の医師として活躍する人たちに、このヒリヒリする現場で学んだことの、一体何を還元できるのだろうか?」

本特集は、これから医師として大きく成長していこうという人たちに、精神科医として「これだけは伝えたい」という想いを形にしたものです。

本特集は、単なるアンチョコ本としては、機能しないかもしれませんが、知りたいことに、直接の答えが出るものではないかもしれませんが、でもどうか、お時間のあるときに、各稿を、じっくりと読んでみてください。例文1つ1つの言い回し、説明の1つ1つの言葉に耳を傾けてみてください。それぞれの筆者が、目の前に患者さんを想像しながら、どうかこの方が幸せになりますように、そしてこの想いが広く若手の先生方に伝わりますようにと願い、心を尽くして書きました。私たち本特集の筆者は、全員、卒後10数年未満の若手精神科医です。既存の本にはない、若手の精神科医ならではの、熱い想いを受け止めていただけますと幸いです。

また、本特集は、認定NPO法人日本若手精神科医の会（Japan Young Psychiatrists Organization: JYPO）の多職種連携・教育委員会のメンバー全員で執筆しています。今回は日本プライマリ・ケア連合学会専門医部会若手医師部門の先生方と共同で企画・編集することができました。趣旨や各稿のテーマも協力しながらつくり上げていくなかで、互いの目線や診療の診立てを、われわれ執筆者のなかでもよりよく共有することができたように感じております。

本特集により、精神科医の診立て、感じ方、捉え方が、少しでも若手の先生お一人お一人に伝わり、素敵な医師として活躍するためのお役に立てるよう、心より祈っております。

〈増田 史, 高尾 碧〉

2 総合診療医の立場から

Gノートの読者である若手プライマリ・ケア医にとって精神症状への対応に苦慮することは日常茶飯事ではないでしょうか。また、若手プライマリ・ケア医が実際に系統的に精神症状への対応を学ぶ機会は乏しいのではないかと思います。前項でも少しご紹介がありましたが、本特集は、2016年度に開催された日本プライマリ・ケア連合学会（JPCA）「第12回若手医師のための家庭医療学冬期セミナー」において、JPCA専門医部会若手医師部門多科多職種連携チームと、認定NPO法人日本若手精神科医の会（JYPO）が共催した「精神科コラボ」をきっかけとして企画されました。

本特集では、JYPO多職種連携・教育委員会の新進気鋭の若手精神科医に、若手プライマリ・ケア医が実際に日常診療で「困った」と感じる項目について記事を執筆していただきました。「精神科は難しい」「精神疾患はよくわからない」という意見がありますが、痒いところに手が届くように、具体的に、わかりやすく、しかしエビデンスと経験に基づいた「エッセンス」を若手精神科医の先生方から伝授していただくことを主眼としています。

今回の特集が、若手プライマリ・ケア医の精神症状への対応力向上に寄与するだけでなく、若手プライマリ・ケア医と若手精神科医の架け橋になると大いに期待しています。最後に、本特集の執筆を引き受けてくださったJYPOの先生方に大いに感謝の気持ちを申し上げたいと思います。若さと情熱に溢れたJYPOの先生方でなければ、この企画は成り立ちませんでした。読者諸兄にこの特集を届けられることを光栄に思います。

〈豊田喜弘, 森川 暢〉

プロフィール

増田 史 Fumi Masuda

滋賀医科大学 精神医学講座 / 認定NPO法人 日本若手精神科医の会（JYPO）

臨床では主に思春期年代の診療をしています。思春期も睡眠分野も、生活の問題や気持ちの問題が、“症状”となって現れやすいところは共通しています。患者さんのお話をよく聴いて、本当に解決すべき問題とは何なのか、一緒に考えることができればと思っています。

高尾 碧 Kiyoshi Takao

島根県立こころの医療センター / 認定NPO法人 日本若手精神科医の会（JYPO）

2009年、島根大学医学部卒業。初期、後期研修医時より自傷行為や自殺企図により救命センターを訪れる患者にかかわる機会をいただきました。現在は公立の単科精神科病院に勤務し、司法精神医学と精神科救急を中心に臨床をしています。これからは、多職種連携やチーム医療がより重要になってくると考え、プライマリ・ケア領域の皆さんとも連携を深めていきたいと考えています。

豊田喜弘 Yoshihiro Toyoda

喜多方市地域・家庭医療センター ほっと☆きらり
福島県立医科大学 地域・家庭医療学講座で研修し、今年家庭医療専門医となりました。現職場では、精神科領域をはじめ、皮膚科、整形外科など幅広いケアを実践し、家庭医冥利に尽きます！気がおけない居心地、そして料理はどれも絶品！そんなこだわりの定食屋さんのドクターを目指したい・増やしたいと思っています。

森川 暢 Toru Morikawa

東京城東病院 総合内科 チーフ /
日本プライマリ・ケア連合学会 病院総合医委員会、専門医部会若手医師部門
関西生まれ関西育ちですが、東京に来て早3年。総合内科のチーフという立場で、城東地区の患者さんに、よりよい医療を提供するための努力をしています。今回の特集をきっかけに精神科領域とプライマリ・ケア領域の連携が進むことを期待しています。